



鋼橋技術研究会

---

# 水中・浮体橋梁研究部会 報告書

---

まえがき

我が国の鋼橋の技術は、めざましい発展をみせ、現在では海峡横断橋梁も珍しくはなくなつて来ている。

一方、海外に目を向けてみると、地形状況・自然条件などにより、Floating Bridge の技術開発もかなり進んできているが、我が国のその分野では、未解決な問題がかなりあるのが現状である。このような現状に鑑み、鋼橋技術研究会（会長 伊藤 学 東京大学名誉教授）の技術委員会（委員長 増田 陳紀 武蔵工業大学教授）において、水中・浮体橋梁研究部会が設置され、設計・架設 Spec のたたき台を提案することになった。実際に、活動を進めてみると、検討項目が多く、当初は浮体橋梁について部会活動を開始し、平成11年7月には浮体橋梁としての成果を報告書にまとめることができた。

引き続き、水中橋梁の実現に向け、問題点の整理をし、設計、施工、維持管理等について検討を進めることとした。

具体的な研究活動としては、国内ならびに海外の文献とそれらに関連する各種文献の調査を実施し、我が国で水中橋梁を実現するために必要な検討項目、問題点、利用できる項目等の整理を行った。さらに、ケーススタディとして紀淡海峡横断を対象としてテンションレグ方式とポンツーン方式の2つに分類し、部会内にワーキンググループを設置し、構造・施工等について検討を行い、試設計を進めてきた。そのなかでは陸上部との接合構造や施工方法、また新素材の適用についても言及した。このような平素の業務とは、多少異なる分野の問題解決にあたっては、部会員の努力に負うところが多かった。

平成16年10月

水中・浮体橋梁研究部会

部会長代筆 部会員 團 紳一郎